会員のみなさまと学会を結ぶ

No.60 2017

# Letter for Members

【コンテンツ】

●支部学術大会報告 …… 1
●25th Annual Scientific Meeting of the European Association for Osseointegration報告 …… 7
●IJP-JPS Workshop for Young Prosthodontic Educators 開催報告 …… 9
●第2回補綴歯科臨床研鑽会「プロソ '16」開催報告 ……11

## 支部学術大会報告

### ●九州支部，中国・四国支部合同学術大会

平成 28 年 9 月 3 日（土），4 日（日），熊本県歯科医師会館（熊本県熊本市）において，熊本県歯科医師会会長の浦田健二大会長のもと，平成 28 年度公益社団法人日本補綴歯科学会九州支部，中国・四国支部合同学術大会が開催されました．

特別講演では福岡歯科大学の山下潤朗先生による「骨代謝における副甲状腺ホルモンの役割と骨増生への応用」と題するご講演やニューヨーク大学の山野精一先生から「米国における歯学部の現状」と題するご講演をしていただきました．また，シンポジウムでは九州歯科大学の小野堅太郎先生，長崎大学の鳥巣哲朗先生，日本大学松戸歯学部の小見山道先生から非歯原性疼痛の原因やその対応について，分かりやすくお話ししていただきました．

併催された九州支部専門医研修会では「摂食嚥下障害の機能評価とリハビリテーションの最前線」というテーマで広島大学の吉田光由先生と鶴見大学の菅武雄先生にご講演いただき，また生涯学習セミナーでは，大阪大学の峯篤史先生と日本歯科大学の新谷明一先生から支台築造と CAD/CAM 冠についてそれぞれ基礎研究を基にした臨床上の注意点などをお話ししていただきました．さらに市民フォーラムでは，九州支部の友枝圭先生に在宅医療における口腔ケアの重要性について一般の方を対象にご講演していただきました．

台風が近づく中での開催となりましたが，372 名と多くの先生方にご参加いただき，これからの超高齢社会における補綴治療を考える上で非常に有意義な学術大会となりました．（九歯大　正木千尋）

シンポジウム質疑応答の様子

市民フォーラムの会場風景

## ●東京支部学術大会報告

2016年9月24日(土),日本歯科大学九段ホール(東京都千代田区）において，日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第1講座 志賀　博大会長（歯科補綴学第2講座 五味治徳準備委員長）のもとで，平成28 年度公益社団法人日本補綴歯科学会東京支部総会・学術大会が開催されました．

今回の学術大会では，特別講演には東京支部 深水皓三先生より「治療用義歯を用いた総義歯治療」と題してご講演いただき，総義歯補綴歯科臨床において浮き上がらない，落ちない，動かない安定した義歯の製作方法についての実践的，具体的内容をご教示いただきました．

生涯学習公開セミナーは「保険導入された舌圧検査」というテーマで行われました．平成28年度診療報酬改定により，舌圧検査が保険導入されたことから，本技術の医療技術評価提案書の作成に関わられた新潟大学 小野高裕先生に「舌接触補助床と舌圧検査」，舌圧検査の開発に関わられた広島大学 津賀一弘先生に「舌圧検査の実際と将来展望」についてご講演をいただきました．両先生のご講演により，舌圧検査の意義と実際をご教示いただきました．

一般口演17題，専門医ケースプレゼンテーション4題が発表され，活発な質疑応答が行われました．

今年度は350名を超える多数の参加者があり，盛会裏に終了することができました．

（日歯大　横山正起）

会場風景

特別講演講師　深水皓三先生

生涯学習公開セミナー講師
小野高裕先生（左），津賀一弘先生（右）

---

## ●東北・北海道支部学術大会

平成28年10月29日（土），30日（日）に北海道大学工学部（オープンホール）において，北海道大学大学院歯学研究科冠橋義歯補綴学教室の山口泰彦大会長のもと，平成28年度公益社団法人日本補綴歯科学会東北・北海道支部総会・学術大会が開催されました．教育講演2題，一般口演6題，ポスター発表10題，専門医ケースプレゼンテーション2題が発表され，活発な質疑応答が行われました．学会参加者数約200名でした．

教育講演では，北海道大学医学研究科の中川　伸先生に心因性の歯科的症状への理解と対応について，精神科専門医の立場から我々歯科医へのご助言をいただきました．また，小畑法律事務所，小畑　真先生には歯科医療紛争の現状と心構えについて，弁護士であり歯科医師でもあるという稀有な立場からお話していただきました．何れも，近年の補綴治療を取り巻く環境として十分に理解しておかなければならない重要なテーマですが，非常にわかりやすく解説していただきました．

併催企画も充実し，専門医研修会では，北海道医療大学歯学部の疋田一洋先生と札幌デンタル・ラボラトリーの垂水良悦先生に，CAD/CAM技術の臨床応用のポイントについてご講演いただきました．市民

フォーラムでは，北海道大学大学院歯学研究科の小林國彦先生に「健康はお口から－噛むこと，飲むこと，しゃべること－」と題し，また，生涯学習公開セミナーでは，岩手医科大学歯学部の近藤尚知先生に「インプラントの上部構造に付与すべき咬合様式」と題してご講演いただきました．

以上の学術プログラムの他，企業展示や懇親会も行われ，非常に盛会裏に終えることができました．今回の学術大会が会員や一般市民の皆様の知識の向上，学術交流に大いに役立てたものと考えております．ご協力いただいた関係各位に心からお礼申し上げます．

（北海道大　高道　理）

教育講演講師の小畑先生（左）と山口大会長（右）

会場風景（専門医研修会）

## ●関西支部学術大会

平成 28 年 10 月 29 日（土），30 日（日）に，あべのハルカスにおいて，大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座　田中昌博大会長のもと，平成 28 年度関西支部総会ならびに学術大会が開催されました．一般口演 15 題，専門医ケースプレゼンテーション 2 題が発表され，活発な質疑応答が行われました．

特別講演では「障害者歯科臨床における補綴歯科との接点／問題点」をテーマに，梅花女子大学看護保健学部口腔保健学科　森崎市治郎教授に，障害者歯科の歴史と高齢社会による老年障害者歯科の必要性，そして障害者歯科が最終目標とする補綴歯科治療について，多くの症例を示していただきながら御講演していただきました．

また生涯学習公開セミナーでは「保険導入された補綴学的検査を，より身近に」をテーマに，第一線で活躍されている日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第 1 講座　志賀　博教授，大阪歯科大学歯科審美学室　末瀬一彦教授，広島大学大学院医歯薬保健学研究院先端歯科補綴学研究室　吉田光由准教授の 3 名の先生方に，「咀嚼運動と咀嚼能力の測定による咀嚼機能検査法」，「保険診療に導入されたシェードテイキング」，「舌圧測定検査と舌接触補助床」に関して御講演していただきました．

参加者数は延べ 261 名となり，それぞれの講演について積極的に意見交換が行われ，盛況の内に会を終えることができました．御尽力いただきました先生方に厚く御礼申し上げます．　（大歯大　向井憲夫）

森崎市治郎教授と田中支部長

生涯学習公開セミナー講師と田中支部長

**●関越支部学術大会**

平成28年11月6日(日)に,新潟県新潟市朱鷺メッセにおいて，松﨑正樹大会長（一般社団法人新潟県歯科医師会専務理事）のもと平成28年度公益社団法人日本補綴歯科学会関越支部総会・学術大会が開催されました．本学術大会は，一般社団法人新潟県歯科医師会との共催となっており，平成28年度新潟県歯科医学大会との同時開催となりました．そのため，補綴学会の会員だけではなく県内の開業医の先生方にも多数参加していただきました.学術大会では一般演題8題,専門医ケースプレゼンテーション3題が発表され，活発な質疑応答が行われました．

市民フォーラムでは,「口腔と健康」と題して,BSNアナウンサー新海史子先生，関越支部・新潟県歯科医師会理事木戸寿明先生，日本歯科大学新潟短期大学浅沼直樹先生の3名の先生方にご講演いただきました．特に話すことを職業とするアナウンサーの新海先生のお話はとてもわかりやすく，一般市民の方々にも好評でした．

学術大会終了後の午後から，専門医研修会として「超高齢社会の歯科補綴の役割とは」とのテーマで東京都健康長寿医療センター研究所の渡邊　裕先生，佐渡市開業の渡部　守先生にご講演いただきました．疫学，地域医療とアプローチの方法は違っても高齢者をサポートするという同じ想いが伝わってくる熱い講演でした．

さらにその後，生涯学習公開セミナーが開催され,「ファイバーポスト併用レジンコアをマスターする」とのテーマで東京支部・坪田有史先生，天川由美子先生にご講演いただきました．多くのデータとともに支台築造に関する臨床的なポイントをお話しいただき，大変参考になる内容でした．

一日大変充実したプログラムとなるとともに，補綴学会会員と地域開業の先生方との活発な交流もあちこちで見られ,盛会のうちに終了することができました．参加いただいた先生方，ご尽力いただいた新潟県歯科医師会の先生方ならびに事務局の皆様に深謝申し上げます．　（新潟大　小野高裕，堀　一浩）

松﨑正樹大会長

学術大会の様子

専門医研修会の様子

**●東海支部学術大会**

平成28年11月12日（土）と13日（日）の2日間にわたり，松本歯科大学歯科補綴学講座の倉澤郁文大会長のもと，松本市中央公民館（Mウイング文化センター）（長野県松本市）において，平成28年度公益社団法人日本補綴歯科学会東海支部学術大会が開催されました．

一般口演が8題，専門医ケースプレゼンテーションが3題発表され，活発な質疑応答が行われました．

12日には『高齢者の口腔機能と健康』というテーマで市民フォーラムが行われ，東北大学の服部佳功先生と新潟大学の小野高裕先生をお招きし，しっかりと咀嚼ができる口腔内環境を整えることが全身の健康維持に繋がるというお話をわかりやすくしていただきました．

13日には『今，最も変わりつつある歯科医療－Digital Dentistry』というテーマで生涯学習公開セミナーが行われ，愛知学院大学の竹市卓郎先生と福岡歯

科大学の佐藤博信先生をお招きし，CAD/CAM システムを用いた最新歯科医療の現状と今後の展開についてお話をしていただきました．

学術大会には 2 日間で 130 名余りの学会員にご参加いただき，盛会のうちに会を終えることができました．

末筆となりますが，この場をお借りして，準備や運営にご尽力いただきました多くの皆様方に心より御礼申し上げます．（松歯大　鍵谷真吾）

左から生涯学習セミナー座長の石神先生，講師の竹市先生，講師の佐藤先生，倉澤大会長

市民フォーラムの講師の服部先生と小野先生

大会運営スタッフ

## ●西関東支部学術大会

平成 28 年度日本補綴歯科学会西関東支部学術大会は，神奈川県歯科医師会の第 15 回学術大会との共催で，平成 29 年 1 月 22 日，神奈川県歯科保健総合センターでの開催となりました．

今年の学術大会は，昨年同様，一般口演とポスター発表の他に，教育講演と特別講演がそれぞれ開催されました．教育講演は，横浜市開業の元開富士雄先生に「超高齢社会において歯科医の果たす役割とは？口腔機能の視点から」と題してご講演をいただきました．超高齢社会を迎える中で，全身のフレイルとの密接な関係，歯科医師はオーラルフレイルにどのように対処するべきか，そのためにはどのような知識が必要なのか，などについてお話いただきました．

特別講演では「下顎位を探る」をメーンテーマとし，福島県開業の松本勝利先生には「生体に調和する咬合高径と咬合平面の模索について」，京都府開業の杉元敬弘先生には「臨床に生かすための補綴・咬合の理論と実践」，鶴見大学歯学部クラウンブリッジ補綴学講座の重本修伺先生には「顎運動情報から見た下顎位の検討」と題してご講演いただきました．

また，日本補綴歯科学会西関東支部学術大会としては，一般口演 8 題，ポスター発表 8 題，大勢の皆様にご参加いただき，活発な学術交流を通して，有意義な研鑽の機会となりました．

大会開催にあたりご尽力いただいた，日本補綴歯科学会西関東支部の皆様，神奈川県歯科医師会学術委員会委員の皆様に心より感謝申し上げます．

（西関東支部　鈴木駿介）

特別講演会場

ポスター会場

**●東関東支部学術大会**

平成29年2月5日（日），千葉県千葉市の京成ホテルミラマーレにおいて，日本大学松戸歯学部顎口腔機能治療学講座の小見山道を大会長として第17回千葉県歯科医学会と共催にて，平成28 年度公益社団法人日本補綴歯科学会東関東支部総会・学術大会が開催されました．152名の会員が参加し，一般口演10題, 専門医ケースプレゼンテーション3題が発表され，活発な質疑応答が行われました．

生涯学習公開セミナーでは，北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系デジタル歯科医学分野の疋田一洋先生に「歯科におけるデジタルデンティストリーへの期待と展望」と題し，CAD/CAM 冠が保険導入された経緯とファイバーコアを含めた取扱方法を主としてお話をいただきました．市民フォーラムでは，首都大学東京・名誉教授の星　旦二先生に，「なぜ，かかりつけ歯科医がいると長生きか」のテーマにて，歯科の重要性を主として，聴講した82名の一般の方に分かりやすくお話しいただきました．

また，支部学術大会に先立つ2月4日（土）に「専門医に必要な有床義歯の技術とエビデンス」をテーマに専門医研修会を千葉県千葉市の千葉スカイウインドウズ東天紅にて開催致しました．東京医科歯科大学大学院口腔機能再建工学分野の鈴木哲也先生から「フラビーガム，シングルデンチャーにみる難易度の高い症例への対応」，日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座の河相安彦先生から「難易度の高い無歯顎症例への対応－エビデンスと今後の臨床疫学的検討－」の演題で，無歯顎補綴治療の難症例における対応についてご講演いただきました．

千葉県歯科医師会，東関東支部の先生方ならびにご発表いただいた先生方，また日本大学松戸歯学部の関係各位のご協力に感謝申し上げます．

（日大松戸　小見山　道）

質疑応答の風景

生涯学習公開セミナー

◆ ◆ ◆

# 25th Annual Scientific Meeting of the European Association for Osseointegration報告

2016年9月28日から10月1日まで，EAO（European Association for Osseointegration）Congress第25回年次総会がフランスのパリにて開催されました．国際会議場Palais des congrès de Parisは凱旋門から程近い場所にあり，パリは日本と比べるとやや肌寒い気候ではありましたが，会期中は幸いにも天候に恵まれました．今回は日本が招待国となっており，会期中には，日本補綴歯科学会と日本口腔インプラント学会によるブースJapan cornerが設置されました．私は，講座の教授で国際渉外委員会委員，JPR編集長である馬場教授とともに，Japan cornerの設置や，JPR広報活動のお手伝い，学会の取材をさせていただきました．

Invited Country Sessionでは，ブローネマルクオッセオインテグレーションセンターの小宮山彌太郎先生と福岡歯科大学の佐藤博信教授が座長を務められました．講演者として東京医科歯科大学の春日井昇平教授が演題“New strategy for bone augmentation”にて，上顎洞における新たな骨増生術を紹介し，動物実験によるデータから骨膜挙上による骨増生法（E-GBR）の今後の可能性を示されたのが印象的でした．続いて，東北大学の佐々木啓一教授が演題“Consideration of dental implant treatment based on biomechanics and mechanobiology”にて，有限要素法によるインプラント周囲の三次元的な力学的評価をはじめとして，メカニカルストレスを加えた際の骨代謝の変化を骨シンチグラフィーやPETで評価する方法を紹介，メカノバイオロジーの視点に立った生体力学的なインプラント研究に関するご講演も非常に興味深いものでした．このセッションへは日本の先生方のみならず海

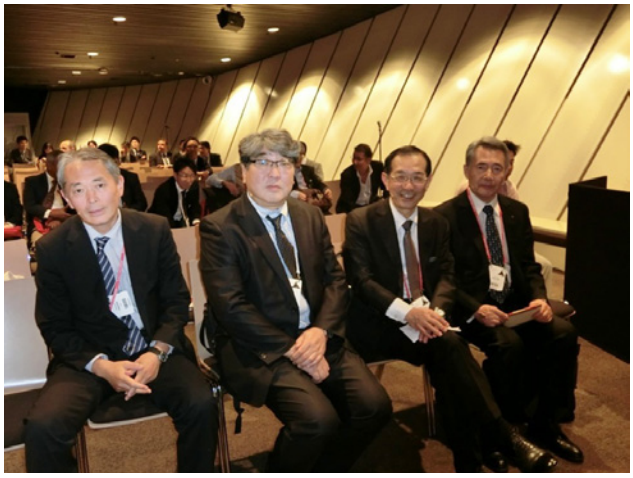
Invited Country Sessionにて（座長をされた小宮山先生，佐藤先生）

外の研究者や臨床家の姿も多く見受けられました．

また，Japan cornerへは大会長のFranck Renouard先生やフライブルグのWael Att教授をはじめ，数多くの海外の先生方に足をお運びいただけました．補綴学会とJPRについての情報を提供させていただきましたが，特に，JPRのインパクトファクターや査読期間などについての具体的な質問を多くいただきました．

なお，EAO第26回年次総会は，2017年10月5〜7日にスペインのマドリードで開催される予定です．末筆ながらこのような機会を与えて下さった日本口腔インプラント学会ならびに日本補綴歯科学会の関係各位に厚く御礼申し上げます．

（昭和大　大嶋瑶子）



Session会場にて
（左から春日井先生，佐々木先生，佐藤先生，小宮山先生）

演者の皆様とJapan cornerにて

大会長のFranck Renouard先生とJapan cornerにて

# IJP-JPS Workshop for Young Prosthodontic Educators 開催報告

平成28年11月24日から27日の4日間，The International Journal of Prosthodontics（IJP）と日本補綴歯科学会が主催した本ワークショップを京都の松風トレーニングセンターで開催いたしました．

このワークショップは，IJPのEditor-in-ChiefであるGeorge Zarb先生を中心として補綴教育に関わる若手指導者の育成を目的としており，これまでドイツのカールスルーエやバーデンバーデンで，アジアではソウルと北京で開催されておりましたが，日本では，今回が初の開催となりました．講師にはZarb先生をはじめ，本ワークショップにこれまで長くかかわってこられたIJPのEditorの先生方，また，日本からも古谷野　潔先生，前田芳信先生をはじめ，馬場一美先生，江草　宏先生，細川隆司先生，小見山　道先生，大久保力廣先生，澤瀬　隆先生に講師を務めていただきました．また，応募によって北海道大学から鹿児島大学まで36名の先生方に参加いただきました．

初日は論文のレビューについて，4名の講師の講義ののちに，6名の6グループに分かれ，2本の論文（メタアナリシス，システマティックレビュー）の評価についてディスカッションを行いました．参加された先生方もこれまで多くの論文のレビューをされているかと思いますが，改めて論文の評価について，エキスパートの見識を学ぶことができ，また自分が論文を執筆するに当たりどのような点に注意すべきか（Reviewerがどこをどのように評価するか）について，学ぶことができたのでは，と思われます．

2日目と3日目は，午前中は英語での講義，午後からは提示された3症例（tooth wear，インプラント補綴，骨格性反対咬合）について，チュートリアルを行い，4日目に症例に対するプレゼンテーションを英語で行う，といった内容でした．参加者は英語での講義に集中し，また，午後からのチュートリアルでも難易度の高い内容に対してチューターを交えた英語でのディスカッション，と気の抜けない時間が続いたようでしたが，その分，休憩時間などで講師や参加者の先生方との会話ではリラックスした表情が見られました．

最終日のプレゼンテーションでは，どのグループもそれぞれが担当した症例に対して，臨床での経験だけでなく，2日間の講義の内容や各々の論文検索からエビデンスベースドの方針が述べられ，IJPの講師の先生方の予想を上回る素晴らしい発表が続いておりました．（中には当日の早朝5時までプレゼンテーションを作成していたグループもあったようです．）

このワークショップが参加された先生方にとって，補綴医として，また教育者としてのキャリアアップに寄与するところがあれば，非常に有意義な会であったと思われますし，そう信じて疑いません．また，同世代の補綴医が一堂に会し，親交を深めることができたことでも本ワークショップは意義あるものであったと思われます．

最後になりましたが，本ワークショップを開催するに当たりご理解，ご協力を賜りました松村理事長，櫻井財務委員長，川原総務理事をはじめ理事の先生方，また，講師の先生方事務局の木村佳子氏，スタッフとしてご協力いただいたに大阪大学の権田先生，峯先生，松田先生に心より御礼申し上げます．

（九州大　荻野洋一郎）

ワークショップのイントロダクションを行う Zarb 先生

白熱した講義とディスカッション.

チュートリアルでも英語でディスカッションが行われました.

ランチタイムはリラックスした表情で・・・

最終日のプレゼンテーションのほんの1枚．ディスカッションも盛り上がりました.

参加者, 講師, 全員での集合写真．このワークショップではお決まりの1枚.

**【投稿募集】**

*Letter for Members* では，各支部の学術大会報告，日々の研究の報告など，会員の皆さまの投稿をお待ちしております．採否は事前にお知らせいたします.

投稿は，公益社団法人日本補綴歯科学会事務局（jpr-edit01@max.odn.ne.jp）まで，メールにてお寄せください.

# 第２回補綴歯科臨床研鑽会「プロソ ’16」開催報告

平成 28 年 12 月 10,11 日の両日，鱒見進一（九州歯科大学顎口腔欠損再構築学分野教授）を大会長として第２回補綴歯科臨床研鑽会「プロソ ’16」が開催された．本会は２年前に「プロソ ’14」として日本補綴歯科学会が初めて開催した補綴歯科臨床研鑽会の第２弾であり，本学会専門医の継続的研修と専門医取得を目指す会員の研鑽を目的として開催されるものである．

メインテーマを「補綴装置による機能回復を目指して」として，パーシャルデンチャー，オーバーデンチャー，コンプリートデンチャーおよび特殊補綴装置の４つのカテゴリーに分けてシンポジウムが行われた．各シンポジストは中堅や若手の先生が多いことも特徴のひとつである．

研鑽会１日目，開会式にて松村英雄理事長から研鑽会の趣旨や開催経緯について説明をいただき，本会の幕が上がった．シンポジウム１「パーシャルデンチャーによる機能回復」（座長：若林則幸先生（東京医科歯科大学），村田比呂司先生（長崎大学））では，月村直樹先生（日本大学）より「口腔機能の回復が全身機能に及ぼす影響」として，欠損を有する高齢者に対し，補綴装置の装着により咬合接触を獲得することが要介護度の軽減や全身のバランス機能の向上につながるという示唆をいただいた．つぎに鳥巣哲朗先生（長崎大学）による「歯の喪失ならびに口腔機能低下が高齢者健康状態に及ぼす影響」では，複数の協力施設から集められた膨大なデータより，義歯を主体とした補綴治療の介入が健康状態の向上につながる可能性について報告をしていただいた．さらに依田信裕先生（東北大学）による「バイオメカニクス・メカノバイオロジー観点から欠損歯科補綴を考える」では，義歯装着時の床下粘膜下への力の集中と骨吸収との関係についての最新の研究について紹介していただいた．最後に笛木賢治先生による「ノンメタルクラスプデンチャーの臨床エビデンス」では，臨床エビデンスに基づいたノンメタルクラスプデンチャーの適応について見解を述べていただいた．

シンポジウム２「オーバーデンチャーによる機能回復」（座長：窪木拓男先生（岡山大学），鱒見進一先生（九州歯科大学））では，兒玉直紀先生（岡山大学）より「インプラントオーバーデンチャー有効性–全部床義歯との比較–」として，臨床研究データのメタ解析結果を元に，本邦におけるインプラントオーバーデンチャーの現状とその展開についてお話ししていただいた．つぎに，和田誠大先生（大阪大学）による「CAD/CAM システムを応用したインプラントオーバーデンチャー」では，CAD/CAM 技術を利用したインプラントオーバーデンチャーの設計，サージカルガイド，アタッチメントの製作に至る最新のワークフローについて紹介していただいた．さらに，中村好徳先生（愛知学院大学）による「磁性アタッチメントの臨床とその展望」では，豊富な臨床経験を生かした磁性アタッチメント用いたオーバーデンチャーの診断と設計，臨床のポイントについてご教示いただいた．最後に中居伸行先生（関西支部）による「臨床に生かすインプラントオーバーデンチャー」では豊富な臨床経験をもとに各種オーバーデンチャーをどの様に選択し応用すべきか，臨床手技についてもご紹介いただいた．

研鑽会２日目も活発なシンポジウムが行われた．シンポジウム３「コンプリートデンチャーによる機能回復」（座長：村田比呂司先生（長崎大学），越野　寿先生（北海道医療大学））では，川西克弥先生（北海道医療大学）より「全部床義歯装着者の咀嚼機能評価」として，種々の咀嚼機能評価法について症例を交えて紹介していただいた．つぎに松田謙一先生（大阪大学）による「全部床義歯製作に BPS を取り入れるメリット」では，Biofunctional Prosthetic System (BPS) を取り入れた新しい有床義歯製作法について従来法との比較を行いながらわかりやすく説明をしていただいた．さらに新保秀仁先生（鶴見大学）による「DENTA システムとピエゾグラフィーを応用した全部床義歯」では，ピエゾグラフィーによって得られた情報を最新のデジタルテクノロジーを応用して処理し有床義歯製作に役立てる方法について紹介していただいた．最後に金澤　学先生（東京医科歯科大学）による「CAD/CAM 技術を応用した全部床義歯」では，CAD/CAM 技術を応用した全部床義歯製作法について，症例や研究結果を踏まえて解説していただいた．

最後にシンポジウム４「特殊補綴装置による機能回復」（鱒見進一先生（九州歯科大学），小川　匠先生（鶴見大学））では，堀　一浩先生（新潟大学）より「舌接触補助床（PAP）による嚥下機能の回復」として，

嚥下機能低下を有する患者に対しPAPを用いた治療について紹介していただいた．つぎに隅田由香先生（東京医科歯科大学）による「顎顔面補綴装置を用いた機能回復」では，多くの顎補綴症例の紹介とImmediate Surgical Obturator（ISO）についてもご教示いただいた．さらに槙原（九州歯科大学）が「オーラルアプライアンスによる睡眠時無呼吸の機能回復」として閉塞型睡眠時無呼吸症候患者に対するオーラルアプライアンス治療の特徴と，これからの課題について紹介させていただいた．最後に重田優子先生（鶴見大学）による「Occlusal overlay splintによる咬合機能の回復」では，ブラキシズムなどの悪習癖に対するスプリント療法を発展させ，ジルコニアを応用した新たな治療装置についてご紹介いただいた．

以上，4シンポジウム，計16名の講師にご講演頂き，2日間にわたってさまざまな考察，議論が加えられ，参加者の知識および技術の向上に大きく貢献したものと考えられる．　（九歯大　槙原絵理）

シンポジウム1の先生方

シンポジウム2の先生方

シンポジウム3の先生方

シンポジウム4の先生方

会場の様子